

「日々の理科」(第 4419 号) 2026, -9, 15

「秋の北極圏旅行記 (1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私はこれまでに、単独行、友人同行など合わせて、20回以上北欧の北極圏地方を訪れています。もちろん冬や春のオーロラシーズンが多いですが、夏にも何度か旅行しました。しかし、秋の北極圏には一度も行ったことがありませんでした。数年前から友人と計画し、9月中旬～下旬にスカンジナビア半島北部の北極圏を旅行する準備をしてきました。それがやっと実現したのです。

秋の北極圏の魅力は、その風景が絶大な美を鳴らすこと、そしてまだ凍らぬ湖面に、雄大なオーロラが反映する姿を見られることです。

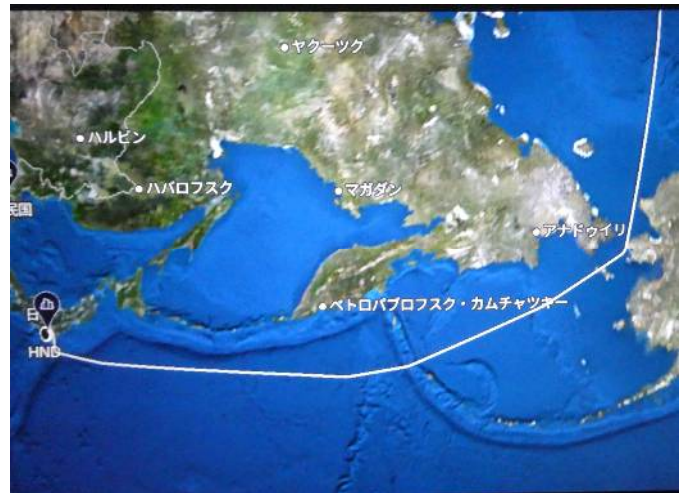


北欧に行く時は、ヘルシンキ行きの日航機が多かったのですが、今回はかなり前にフィンランド航空の直行便を予約しました。羽田空港の国際線第3ターミナルのLカウンターで手続きです。

20:05	アムステルダム	→	AS864	→	JL4602	
20:15	ホノルル	→	JL74	→	HAS389	
21:05	ロサンゼルス	→	NH126	→	UA7928	T2
21:10	北京・首都	→	CA422	→		
21:15	シアトル	→	NH118	→	UA7930	
21:20	21:10	ホノルル	→	AS832	→	JL4600
21:40	21:55	フランクフルト	→	NH203	→	LH4921 T2
21:45		イスタンブール	→	TK199	→	MS9363
21:50		ヘルシンキ	→	AY62	→	JL6877
21:55		ホノルル	→	DL198	→	VN3021
21:55		ホノルル	→	JL72	→	MH9786
21:55		バンクーバー	→	NH116	→	UA7994
21:55		ホノルル	→	NH186	→	UA7984 T2
22:00		シドニー	→	QF60	→	AF9681
22:30		上海・虹桥	→	NH967	→	HO3136 T2
22:45		ニューヨーク(UFK)	→	NH160	→	UA7924 T2
22:45		ロサンゼルス	→	NH205	→	OS8564 T2

出発は21:50とかなり遅く、今回はオーロラ観測機材の更新などもあり、膨大な荷物(合計40kg近く)になったので、自宅から定額タクシーを頼みました。自宅前場でバンで乗り付けてくれて、首都高速を通っても、4,500円で済みました。

実は出発当日の朝、オンラインチェックインをして搭乗券をダウンロードして、氏名は間違えていなかったのですが、性別が間違えて「MS」と記載されていたことがわかりました。このままでは搭乗できないので、大至急フィンランド航空発券課に電話して、訂正をお願いしました。しかし、時差の影響で本社と連絡がつかず、正しく記載された搭乗券が発行されたのは、出発の2時間前でした。出発前になかなかスリルのあるハプニングでした。

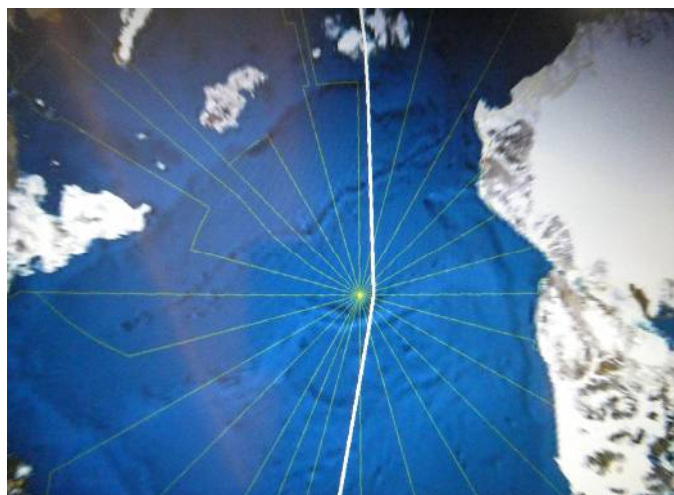


現在、日本から欧州へ向かう航空機は、シベリア上空を通過できません。代替ルートになっているのが、北極海経由です。千島列島やカムチャッカ半島の近くを通り、ロシアとアラスカの間のベーリング海峡を通過して北極海に入るのです。

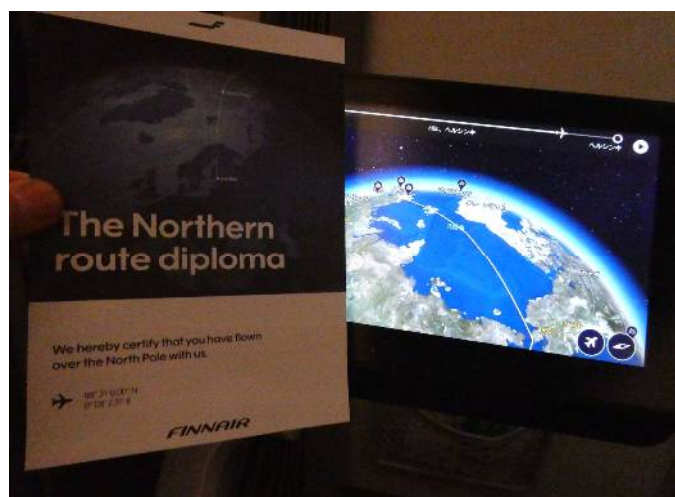


当然、大変な遠回りになります。シベリア経由なら

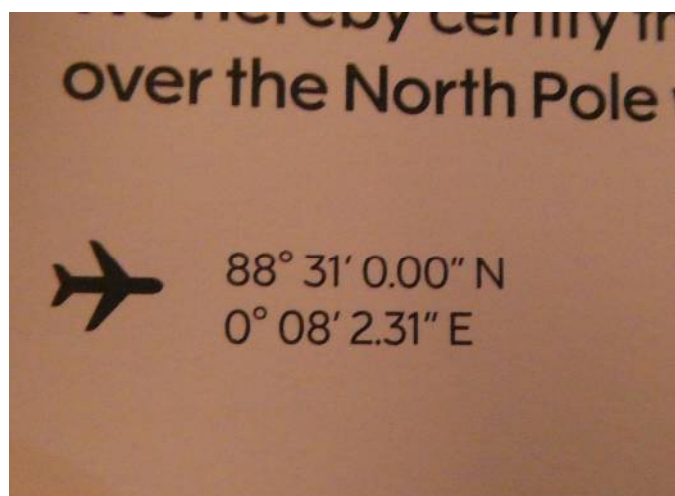
7時間台で到着できた東京～ヘルシンキ間は、実に13時間近くかかってしまいます。



そのかわりと言っては変ですが、機は北極点のすぐそばを通過します。



希望者には、キャビン・クルーの方から、北極点通過証明書というものもいただけます。



通過したのは、北緯 88 度 31 分 0 秒、東経 0 度 8 分 2.31 秒と、ほぼ北極点でしたが、実際には北極点から 150km ほど南の地点でした。



もう一つは北極圏を飛んでいる時間が長いので、機内からオーロラが見えるチャンスが多いこともあります。写真は同行の友人が撮影したもので、緑色のバンド・オーロラがうっすらと写っています。



機外カメラの画像にもオーロラがはっきりと写っていました。搭乗時間は長いですが、これは、少し得した気分になれますね。



機は北極海に位置し、ノルウェー領のスヴァールバル諸島上空も通過しました。いつか行ってみたい、最果ての島々です。